



全国優良畜産経営管理技術発表会【優良畜産経営部門】

農林水産大臣賞 枝幸町 ヨシダファーム(有)

生産局長賞 むかわ町 野脇広夢氏

農林水産大臣賞 【最優秀賞】

枝幸町 ヨシダファーム(有)：JA宗谷南

計画的な規模拡大と従業員雇用でゆとりある高収益経営
一家族経営から地域No.1の酪農法人へ

〈経営概要：酪農経営〉

乳牛 390頭（経産牛 270頭、育成牛 120頭）

採草地 160ha（コントラ利用）

・平均産次数 3.2産、平均分娩間隔 13.7ヶ月

・経産牛淘汰率 18.7% 出荷乳量 2,100t/年

従業員 8名雇用 北海道指導農業士 JA宗谷南理事

〈受賞理由〉

長命連産、繁殖管理の徹底、低事故率実現

計画的な規模拡大で継承時の5倍の頭数に！

働きやすい環境づくり

【8時間労働、福利厚生充実、独立支援等】

地域への多大な貢献

【情報発信、担い手確保・育成、コントラ設立等】



ヨシダファーム(有)の吉田明彦氏(右)と
JA宗谷南の浜田課長(左)

推薦者のコメント

ヨシダファーム有限会社(代表取締役:吉田明彦氏)は、宗谷地方枝幸町に位置する大規模酪農専業経営です。経営者の吉田明彦氏は就農16年目の平成10年に父から経営継承し、平成16年にヨシダファーム有限会社を設立しました。

法人化した契機は、後継者が不在だったことから第三者に継承しやすい形態にするためでしたが、規模拡大や従業員雇用においても法人化によるメリットを享受することが出来ました。

経産牛飼養頭数は、経営継承時の50頭から現在270頭と5倍以上に増頭しています。この背景には、地元JA・普及センター等の協力の下、10年間の長期計画を作成し、自家生産牛による規模拡大と設備投資(フリーストール牛舎・堆肥舎・バンカーサイロ等)をしたため達成できたと考えられます。

生産技術において優れた点は、経産牛270頭の大規模経営でありながら、高い飼養管理技術により長命連産を実現していることです。平均産次数3.2産、平均分娩間隔13.7ヶ月、経産牛淘汰率18.7%といずれも全道平均を上回り、個体乳量はやや少ないものの、牛を長く大切に使うことで高い収益性を誇ります。また、淘汰率が低いことから、育成牛を多く抱える必要がないため、育成コストを抑えています。

従業員については、法人設立時に1名雇用し、現在は8名が働いています。労働力不足が深刻な宗谷地方で多くの人に来ていただくために、働きやすい環境づくりに努めています。労働時間は8時間/日以内で超過する場合は残業代支給、雇用条件の明確化、従業員住宅の整備・車の無料貸与等の福利厚生充実により、従業員は5~10年と長期で働いております。また、独立を目指す従業員には経営管理を教育し、本経営から2名が新規就農しています。

経営者は地域の様々な組織のリーダーとして多大な貢献をしてきました。近隣酪農家4戸で設立した「枝幸ミルクネットワーク」はホームページでの情報発信、酪農体験・研修の受入、従業員雇用等で大きな役割を果たしました。この他にも枝幸町農業法人会、宗谷酪農法人代表者情報交換会、コントラクターの設立等にも関わり、地域の労働環境整備と就農希望者へのPR活動を行ってきました。

今後も、次世代の継承を見据えて、さらなる生産量拡大を実現し、地域の酪農を支える存在として活躍し続けてくれるものと信じています。

(経営支援部経営支援課 技師 渋谷和希)

農林水産省生産局長賞〔優秀賞〕
むかわ町 野脇 広夢 氏：JAむかわ

手間を掛けない飼養管理で高所得を実現
—繁殖牛1年1産！子牛の早期出荷と
高単価販売を実践する経営—

〈経営概要：和牛繁殖経営〉

成雌牛頭数 60 頭

・過去5年間の生産成績

平均分娩間隔 12.1ヶ月

子牛生産頭数 54.8頭、子牛生産率 94.3%

・直近（H30）の販売成績

出荷頭数 51 頭（♂35頭・♀16頭）

♀平均 285 日齢、302 kg、800 千円

♂平均 264 日齢、335 kg、978 千円

・鶴川和牛改良組合 理事

〈受賞理由〉

労働時間の短縮

〔家族間での明確な役割分担、牛舎環境の整備〕

繁殖牛1年1産の実現

子牛の早期出荷と高単価販売の実現

〔飼養管理の工夫、積極的な和牛改良〕



野脇 広夢 氏とご家族

推薦者のコメント

野脇広夢氏は、胆振管内むかわ町で和牛繁殖60頭を飼養する家族経営です。

酪農学園大学在学中に就農する意思を固め、水稻+繁殖30頭から、肉牛経営一本に絞り繁殖60頭規模に拡大を図る為、平成19年に就農すると同時に新牛舎を建築し、繁殖牛増頭を行ってきました。

新牛舎の建築構造及び牧場内レイアウトは、大学在学中に担当教授や実習先牧場で経験・アドバイスを基に設計し、現在の労働効率を上げる飼養環境に活かされています。繁殖牛の増頭は、無理のない範囲で自家産牛を中心に行うことと、優良牛保留に努め、当初の目標であった60頭規模を達成しています。

生産技術においては、日々の飼養管理の徹底に加え、和牛改良に積極的に取り組んでいることが、繁殖牛1年1産、子牛の早期出荷と高単価販売を実現する技術の基礎となっています。

地域の活動では、鶴川和牛改良組合の和牛振興委員長を務め、若手生産者のリーダーとして、地域の和牛振興に尽力し、現在は当組合の理事として活躍されています。また、平成29年に開催された第11回全国和牛能力共進会宮城県大会においては、鶴川和牛改良組合から北海道代表牛が選抜され、地域若手生産者と共に出品者のサポートに努め、出品牛は第2区若雌の部で優等賞10席の成績を修めました。

以上のような労働効率を上げる作業体系と、技術水準を高めた飼養管理及び和牛改良による優良牛生産を実践する経営は、家族経営体の模範であると捉え、優良畜産経営として推薦しました。

今後も家族経営の強みを活かした経営継続と、地域の和牛改良のリーダーとしてご活躍を期待しています。

（経営支援部経営支援課 主査 片山陽介）



優良畜産経営の受賞者と審査委員の皆様方